

## I 現状と課題（区学力調査から）

- 設定されている調査目標値は、どの教科も上回っている。
- 評価の観点や領域等を視点とした課題は次の通りであり、

Ⅲ 授業改善【基礎・基本の習得及び活用】において課題に対する具体的な指導改善の手立てについて記載する。

平成26年度 評価の観点等を視点とした課題 （「 」は観点、〔 〕は領域等）	平成27年度 評価の観点等を視点とした課題 （「 」は観点、〔 〕は領域等）	平成28年度 評価の観点等を視点とした課題 （「 」は観点、〔 〕は領域等）
<p><b>【4年】</b>                      国語：「書く力」「言語についての知識理解技能」〔文学的文章〕                      社会：「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用の技能」                      「社会的事象の知識・理解」                      「地理的な内容」〔公民的な内容〕                      算数：「数学的な考え方」「技能」〔数と計算〕〔図形〕                      理科：「科学的な思考・表現」「自然事象についての知識・理解」</p>	<p><b>【4年】</b>                      国語：「書く力」「読む力」「言語についての知識理解技能」                      〔説明的文章〕〔文学的文章〕〔言語事項〕                      社会：「社会的な思考・判断・技能」「観察・資料活用の技能」                      「社会的事象の知識・理解」〔地理的内容〕                      算数：「知識・理解」「技能」「数学的な考え方」〔数と計算〕〔図形〕                      〔数量関係〕                      理科：「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・理解」                      〔物質・エネルギー〕〔生命・地球〕</p>	<p><b>【4年】</b>                      国語：「書く力」「読む力」「言語についての知識理解技能」                      〔説明的文章〕〔言語事項〕                      社会：「観察・資料活用の技能」「社会的事象の知識・理解」                      〔地理的内容〕〔生活的内容〕                      算数：「知識・理解」「技能」〔数と計算〕〔量と測定〕                      理科：「科学的な思考・表現」「自然事象についての知識・理解」                      〔物質・エネルギー〕</p>
<p><b>【5年】</b>                      国語：〔文学的文章〕                      算数：〔図形〕</p>	<p><b>【5年】</b>                      国語：「読む力」〔説明的文章の内容・要旨〕〔心情の理解〕                      「言語についての知識理解技能」〔漢字辞典の使い方〕                      社会：「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用の技能」                      「社会的事象の知識・理解」                      算数：「技能」「数学的な考え方」〔折れ線グラフを読み取る〕〔作図〕                      理科：「科学的な思考・表現」</p>	<p><b>【5年】</b>                      国語：「書く力」「言語についての知識理解技能」〔説明的文章〕〔言語事項〕                      社会：「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用の技能」〔地理的内容〕                      〔公民的内容〕                      算数：「技能」「数学的な考え方」〔数と計算〕〔数量関係〕                      理科：「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」〔物質・エネルギー〕</p>
<p><b>【6年】</b>                      国語：「書く力」〔文学的文章〕                      社会：「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用の技能」                      「社会的事象の知識・理解」                      算数：「数学的な考え方」                      理科：「科学的な思考・表現」「観察実験の技能」</p>	<p><b>【6年】</b>                      国語：「読む力」〔文学的文章〕〔心情の理解〕                      社会：「社会的事象の知識・理解」「社会的な思考・判断・表現」                      「観察・資料活用の技能」                      算数：「知識・理解」「技能」〔統計的なものの見方に関する理解〕</p>	<p><b>【6年】</b>                      国語：「書く力」「読む力」〔文学的文章〕〔説明的文章〕〔言語事項〕                      社会：「社会的事象の知識・理解」「観察・資料活用の技能」「社会的な思考・                      判断・表現」〔地理的内容〕                      算数：「知識・理解」〔数と計算〕〔数量関係〕                      理科：「科学的な思考・判断」「自然事象についての知識・理解」〔物質・エ                      ネルギー〕</p>

## II 授業改善の概要

<p><b>1 学力と学習活動</b>                      基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するために必要な<u>思考力・判断力・表現力等の育成を</u>バランスよく培うことを目指す。基礎的・基本的な知識・技能を習得する活動、これらの活用を図る<u>学習活動及び総合的な学習の時間</u>を中心とした<u>探究活動</u>が相互に関連付けられる学習の流れを重視する。</p>	<p><b>2 授業改善の視点</b>                      「確かな学力」を育成する視点                      【習得】－【活用】－【探究的な活動】へ                      ○「学び」の様相                      A：知る・覚える                      B：考える・工夫する                      C：疑問・関心をもつ                      D：体験する                      ○「習得」の過程                      A, B→A, C→B→A, D→B→C→A 等</p>	<p><b>3 授業改善の方策</b>                      ※各教科で課題を明らかにすると共に、前述のA B C Dの関係「学び方」を整理し、習得・活用（項目Ⅲ）の学習指導・授業改善を図る。また、教育課程の具現化に結び付ける。                      ※2年生以上は学力調査結果・分析に基づく授業改善に取り組む。                      ※週の指導計画へ指導改善プランの項目記号を記載する。</p>	<p><b>4 達成度調査からの授業改善のポイント</b>                      国語、社会、算数、理科の4教科における「基礎・基本の習得及び活用」については、「項目Ⅲ」に記載する。</p>
---	--	--	---

### Ⅲ 授業改善【基礎・基本の習得及び活用】

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
基礎・基本・活用 (◎課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 経験したことや想像したことなどについて、事柄の順序を考えながら話したり聞いたりする。</li> <li>○ 大事なことを落とさないように聞く。</li> <li>◎①経験したことや想像したことなどについて、事柄の順序を考えながら整理し簡単な構成を考えて文章を書く。</li> <li>◎②自分の書いた文章を読み返し、間違いなどに気付き直す。</li> <li>◎③書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む。</li> <li>○ 文字の形に注意し、丁寧に書く。</li> <li>○ 昔話や神話・伝承などの本や文章に親しむ。</li> <li>◎④平仮名、片仮名、配当漢字を読み、書き、文や文章の中で使う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立てて話す。</li> <li>○ 話の中心に気を付けて最後まできちんと聞き、質問したり感想を述べたりする。</li> <li>◎①主述の関係や段落構成に気を付けて、文章を読んだり書いたりすることができる。</li> <li>○ 内容の中心や、場面の様子が分かるように情感を込めて音読する。</li> <li>◎②説明的文章、文学的文章の内容や主題の理解ができる。</li> <li>○ ローマ字を書くことができる。</li> <li>○ 国語辞典を使うことができる。</li> <li>○ 漢字辞典を使うことができる。</li> <li>○ 指示語・接続語の使い方が理解できる。</li> <li>◎③配当漢字を使ったり、必要な語句を増やしたりする。</li> <li>○ 短歌や俳句、ことわざや故事成語に親しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目的や意図に応じ、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら話す。</li> <li>○ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べて共通点や相違点を見出し、考えを深める。</li> <li>◎①目的や意図に応じ、文章全体の構成を考えながら事実と感想、意見などを区別し、自分の考えが伝わるように書く。</li> <li>◎②文学的文章、説明的文章の読解能力を育てる。</li> <li>○ 目的に応じて本を選び、文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する。</li> <li>○ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。</li> <li>○ 辞書を活用する力を育てる。</li> <li>◎③配当漢字を的確に使う。</li> <li>○ 字形の整え方や字配り、配列の仕方に気を付けて書く。</li> <li>◎④古文・漢文などの文語調の文章に親しむ。</li> </ul>
国語  課題に対する指導の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>a ①・視写や聴写を、書く活動として多く取り入れ、正しい助詞の使い方や作文用紙の書き方を身に付けさせる。</li> <li>b ①・ICTを活用し、文章の構成など、視覚的に理解しやすい授業を工夫する。</li> <li>c ①・文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う場を設定する。</li> <li>d ②・語のまとまりや場面の様子を捉えることができるように、様々な方法で音読を繰り返し行う。</li> <li>e ②・楽しく音読できる教材を活用する。</li> <li>f ②・ワークシートを使用し、主語と述語に目を向けさせるようにする。</li> <li>g ②・作品を読みあい、お互いに良いところを話し合う。</li> <li>h ③・想像を広げるための言語活動を授業の中に取り入れていく。</li> <li>i ③・音読発表会や感想を交流する場を取り入れる。</li> <li>j ③・説明的文章では、時間や事柄の順序に気を付けて、物語文では、場面の様子押さえながら想像を広げて読めるようにする。</li> <li>k ③・読解力を高めるために、国語チャレンジタイムで、教科書教材以外の文学的文章や説明的文章を扱う。</li> <li>l ③・一か月に1回、授業として、教科書教材以外の文学的文章や説明的文章を扱う。</li> <li>m ④・週に1時間、言語事項についての時間を設定する。</li> <li>n ④・新出漢字の指導は、指書き、なぞり書き、写し書きなどの様々な練習を取り入れる。</li> <li>o ④・週に1回、学習した漢字が身に付いたかどうかを確認する小テストを実施する。</li> <li>p ④・間違えた問題のやり直しや再テストを繰り返す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a ①・書く力を高めるために、視写や例示を参考にして書く活動を取り入れる。</li> <li>b ①・句読点を適切に打ち、段落の始め、会話の部分などは改行するなど、書く活動で繰り返し指導し、定着させる。</li> <li>c ①・授業や家庭学習で、短文づくり、1行日記など、自分を振り返りながら、自分の考えを書く活動に取り組む。</li> <li>d ②・説明的文章では、段落の内容を読み取って要約する、文章構成を考える、事実と意見を分類する活動を工夫し、読む力を高める。</li> <li>e ②・文学的文章では、登場人物の気持ちの変化を叙述に即して読み取る、読み取ったことをもとに物語の主題を考える、互いの考えを交流する活動を工夫し、読む力を高める。</li> <li>f ②・図書の日や家庭学習に読書を位置付け、読書の楽しさを味わわせる。</li> <li>g ②・読む力を高めるために、音読指導を単元計画に位置付けて、繰り返し行うとともに、家庭学習でも取り組む。</li> <li>h ③・国語タイムを活用し、継続して漢字の定着と語彙の量を増やす。</li> <li>i ③・漢字指導では、指書きを取り入れ、筆順の正しい理解を図る。</li> <li>j ③・毎時間言語に関するテストを行ったり家庭学習を活用したりし、定着を図る。</li> <li>k ③・国語辞典や漢字辞典に慣れ、活用できるようにするために、辞書引きの活動を計画的に取り入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a ①・報告文や意見文、詩や俳句等、様々な形態の文章を書くことができるよう、例文を提示し、ねらいに応じた書き方ができるように指導をする。</li> <li>b ①・文章構成メモ等のワークシートを活用し、「始め、中、終わり」や「起承転結」などの構成を意識し、見通しをもって作文できるようにする。</li> <li>c ①・読み取ったことや検討したことを書いてまとめたり考えを発表したりする場を設け、友達の発言を聞くことによりさらに自分の考えを深めさせる。</li> <li>d ②・文学的文章の読解の学習で、場面の描写を根拠に登場人物の心情やその変化について読み取らせ、小グループで意見の交流をさせる。</li> <li>e ②・説明文や意見文の読解の学習で、作者の主張やその根拠となる事例(事実)について本文にサイドラインを引かせ、文章表現を出るだけ変えずに抜き出してノート等にまとめる作業を行う。</li> <li>f ②・説明文や意見文で抜き出した本文の重要な項目(作者の主張やその根拠となる事例・事実)を基にして文章構成図を作成したり、本文を要約したりする作業を行う。</li> <li>g ②・読解力を高めるために、月に1時間教科書教材以外の文学的文章や説明的文章を扱う。</li> <li>h ③・国語タイムを活用し、継続して漢字、言葉、作文等、言語事項に関わる力を身に付ける。</li> <li>i ③・新出漢字や同音異義語、四字熟語などに関する小テストを繰り返し行い、定着を図るとともに、語彙を増やす。</li> <li>j ④・司書教諭と連携し、古典文学や伝記など、教科書教材に合わせて学級貸出しに関連した図書をそろえることで様々な本に触れ、視野を広げさせる。</li> </ul>

		第1学年及び第2学年		第3学年及び第4学年		第5学年及び第6学年	
基礎・基本・活用 (◎課題)		<p>◎①数の意味や表し方について理解し、活用する力を伸ばす。</p> <p>◎②加法及び減法の意味の理解と活用。</p> <p>○ 数や量の大きさを比較する活動に親しむ。</p> <p>◎④身の回りにあるものの形について観察したり組み合わせたりする活動に親しむ。</p>	<p>◎①数の意味や表し方について理解を深め活用する力を伸ばす。</p> <p>◎②加法・減法の意味について理解を深め活用する力を伸ばす。</p> <p>○ 乗法の意味を理解し、活用する力を伸ばす。</p> <p>◎③長さの単位と測定の意味を理解し、長さの測定をする。</p> <p>○ 体積の単位と測定の意味を理解し、体積の測定をする。</p> <p>◎④三角形、四角形、正方形、長方形、直角三角形について知り、図形について理解できるようにする。</p> <p>○ 乗法が用いられる場面を式に表したり式を読み取ったりする。</p> <p>○ 身の回りにある数を分類・整理し、簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりできるようにする。</p>	<p>○ 万の単位について知り、3位数・4位数の加法・減法の筆算ができるようにする。</p> <p>○ 乗法についての理解を深め、筆算の仕方について理解する。</p> <p>○ 除数が1位数の除法ができるようにする。</p> <p>◎③長さについての理解を深め、長さについて単位と測定の意味を理解し、測定ができるようにする。(4年の調査の結果より)</p> <p>◎④二等辺三角形・正三角形・角・円・球について知り、コンパスや定規を使って作図できるようにする。</p> <p>○ 数量の関係を式に表したり、数量を□などを用いて表したりできるようにする。</p> <p>○ 資料を整理分析し、表や棒グラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりできるようにする。</p>	<p>○ 億・兆の単位について知り、十進位取り記数法について理解を深める。</p> <p>○ 概数について理解し、用いることができるようにする。</p> <p>◎①整数の除法について理解を深め、その計算が確実にできるようにする。</p> <p>◎②小数の加法・減法・乗法・除法について理解し、用いることができるようにする。</p> <p>○ 面積の単位について理解し、正方形・長方形の面積を求められるようにする。</p> <p>○ 角の測定や垂直・平行の関係について理解し、作図ができるようにする。</p> <p>○ 平行四辺形・ひし形・台形について知り、コンパスや分度器等を用いて作図できるようにする。</p> <p>○ 伴って変わる二つの数量の関係を表したり調べたりできるようにする。</p> <p>○ ()を用いた式について理解し、正しく計算できるようにする。</p>	<p>○ 約数や倍数について知り、整数の性質について理解を深める。</p> <p>○ 小数の乗法・除法の意味について理解を深め、立式したり計算したりできるようにする。</p> <p>◎①小数の四則演算及び分数の加法・減法の計算が確実にできるようにする。</p> <p>◎④三角形・平行四辺形・ひし形・台形の面積を求められるようにする。</p> <p>◎④体積の考え方を知り、計算で求められるようにする。</p> <p>○ 単位量当たりの大きさについて知る。</p> <p>○ 多角形や円周率について知る。</p> <p>○ 百分率について理解できるようにする。</p> <p>○ 数量の関係を考察するとともに、百分率や円グラフ等を用いて資料の特徴を調べることができるようにする。</p>	<p>◎①小数の四則演算及び分数の加法・減法の計算が確実にできるようにする。</p> <p>○ 分数の乗法・除法の意味について理解を深め、計算したり用いたりできるようにする。</p> <p>○ 円の面積や角柱・円柱の体積を求められるようにする。</p> <p>◎②速さの考え方を理解し、求められるようにする。</p> <p>○ 様々な単位の換算ができるようにする。</p> <p>○ 縮図や拡大図、対称な図形について理解し、図形についての理解を深める。</p> <p>◎③比や比例について理解し、式や表・グラフ等を用いてその特徴を調べることができるようにする。</p> <p>○ a や x 等の文字を用いて数量関係を表す式を立てたり、文字に数を当てはめて考えたりする。</p> <p>○ 資料の平均や度数分布を表す表やグラフを用いて統計的に考察したり表現したりする。</p>
	算数	<p>a ①・ICTや教材、教具(位取り板、数カード、模擬貨幣)を活用し、数の構成や量の大きさを体験的にとらえやすい活動を工夫する。</p> <p>b ①・数の概念や構成を理解させるために、具体物を数えて10のまとまりをつくったり、100のまとまりをつくったりする操作活動を多く取り入れる。</p> <p>c ②・問題作り、お話作りを行い、問題の構成をつかみ、考える力を養う。</p> <p>d ②・具体物や半具体物を用いた活動、図を描いたり言葉に表したりする活動を工夫し、理解を深める。</p> <p>e ②・教材、教具(フラッシュカード、数カード、算数ブロック、たし算・ひき算カード)の工夫と活用を行い、基礎・基本の習熟を図る。</p> <p>f ②・繰り返し上がりや繰り返し下がりのある加減計算について、家庭学習や算数タイム等を活用して繰り返し学習を行い、確実に習得させる。</p> <p>g ②・家庭と連携し、間違っただ箇所を学校や家庭で直すことを通して定着を図る。</p> <p>h ②・一人一人のつまずきに応じた個別指導の工夫をする。</p> <p>i ②・いろいろな解決の仕方を交流する学習を取り入れるとともに、自分の考えをノートに記録する時間を確保する。</p> <p>j ③・量と測定(長さ、時間、立体、かさ)では、直接比較や間接比較などを行う際、算数的活動を意図的に設定する。</p> <p>k ③・量感を養うために、物差しを作ったり測定したりする活動を設定する。</p> <p>l ④・操作活動を通して、図形に関する用語や意味を、実感をもって理解させる。</p> <p>m ④・用語を正しく理解し使えるようにするために、言葉での指導と共に図や模型で示す。</p> <p>n ④・日常生活の中で、繰り返し用語を使って定着を図る。</p>	<p>a ①・立てる、かける、引く、おろすといった文言を筆算の形式と合わせながら視覚的に捉えさせ、技能の定着を図る。</p> <p>b ①・商とあまりの関係に注目して見当を付け仮の商が立てられるようにする。</p> <p>c ①②・数と計算領域では、プリント・ドリルなどを利用して、四則計算、九九の完全習得等、基礎・基本の内容を反復練習して確実に身に付させる。</p> <p>d ①②・授業の始めに九九やわり算・かけ算の復習ミニテストを行い、定着状況を把握する。</p> <p>・筆算の仕方など基礎・基本は個別指導を通して、繰り返し練習し確実に理解させる。</p> <p>e ①②・習熟度別学習の利点を生かし、一人一人のつまずきに応じた基礎・基本の習熟を確実に図る。</p> <p>f ①②・新しい課題について、既習事項を使って考える場を設定する。</p> <p>g ①②・話し合ったり、考えを発表し合ったりする場を設定する。</p> <p>h ③④・具体的な操作や事象を取り入れる学習活動を工夫する。</p> <p>i ③④・具体物を操作したり、絵や図に表したりして考える時間を十分にとる。</p> <p>j ③・量と測定(長さ、時間、立体、重さ)では、直接比較や間接比較等、算数的活動を意図的に設定する。</p> <p>k ④・コンパスや分度器などを操作する(長さや角度を測る)時間を十分に確保する。特に90度や180度よりも大きい角のかき方の理解を確実に習得させる。</p> <p>l ④・課題に対して少人数で考えを伝え合う活動を取り入れ、友だちの考えのよさを知ることを通して自分の考えを深める。</p> <p>m ④・いろいろな解決の仕方を交流する学習を取り入れるとともに、自分の考えをノートに記録する時間を確保する。</p>	<p>a ①・数と計算領域では、計算プリントやドリルなどを用いて毎時間技能の定着を図る時間を設ける。</p> <p>b ①・習熟度別の3展開の少人数学習の利点を生かし、一人一人のつまずきに応じた基礎・基本の習熟を確実に図る。</p> <p>c ②・単位量当たりの大きさや速さなど、量感がつかみにくい量と測定領域の学習では、毎回の授業で数直線等を活用しながら、「1にあたる量」がどの量になるのかを確実に理解できるようにする。</p> <p>d ②・割合や単位量当たりの大きさの学習を通して学んだ基礎・基本の理解を深め、活用する力を高める。習熟度別学習を通して定期的に割合や単位量当たりの大きさに関する学習を行い、学んだことを活用しながら確実に理解をさせる。</p> <p>e ③・数量関係の領域では、数直線を用いて数量の関係を確認しながら授業を展開し、基にする量がどの量に当たるのかを確実に理解できるようにする。</p> <p>f ③・比や比例の学習では、具体的な場面で学習内容を活用する機会を増やし、比や比例のよさを実感させながら理解を深めるようにする。</p> <p>g ④・具体物の提示し、測定させたり回転させたりしながら図形や立体について実感を伴った理解が促せるようにする。</p> <p>h ④・平面図形の求積の指導に当たっては、ICT機器等を用いて等積変形や倍積変形など捉えにくい図形の見方を視覚化し、豊かな感覚を育む。</p> <p>i ④・図形の性質については、作図の仕方を図形の定義と結び付けて指導する等の指導を重視すると共に、小テストで繰り返し確認することを通して確実に身に付けさせる。</p>			

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
生活(第1・2学年)・社会(第3～6学年) 基礎・基本・活用(◎課題) 課題に対する指導の手立て	◎①身の回りの人とかかわりについて考えるために、活動や体験したことを振り返り、自分なりに整理したり、気づき等を他の人たちと伝え合ったりする。 ◎②集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができる。 ○自分と身近な動植物に関心を持ち、自然を大切にし、遊びや生活を工夫することができる。 ○身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わい、気付いたことを、言葉、絵、動作、劇などで表現し考えることができる。 ○自分の住んでいる町に興味を持ち、進んで調べようとする。	◎①自分たちの住んでいる地域を中心とした人々の生活や諸活動、地理的環境について理解する。 ◎②地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図(絵地図を含む)や各種の具体的資料を効果的に活用することができるようにする。 ◎③資料から必要な情報を読み取る。 ○地域社会の一員としての自覚をもつことや、地域社会に対する誇りと情愛を育てる。 ○事実を比較し、社会的事象について、自分の考えをもつという思考の流れを身に付けられるようにする。 ○調べたことや考えたことを表現する力を身に付ける。 ○人々の生活に必要な飲料水の確保について見学や調査を行い、健康や良好な生活環境の向上に役立っていることを考えるようにする。 ○東京都における災害の防止について関係諸機関が協力してとり行っていることを理解する。 ○古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子について調べまとめる。	◎①与えられた資料から適切に情報を読み取る力を身に付ける。 ◎②社会的事象の意味について資料をもとに考えたり、それを適切な方法で表現したりする力を身に付ける。 ◎③国土と産業の様子について、気候や地形の特色及びその地域に生活する人々の立場に立って理解する。 ○先人の業績や優れた文化遺産についての理解、政治の働きと考え方や、関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解する。 ○環境の保全や自然災害の防止、産業の発展や社会の情報化の進展に関心を持ち、国土に対する愛情を育てる。 ○歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情を育てるとともに、平和を願い、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さを自覚できるようにする。
	a①・学年や身近な地域の人たちとの関わりを計画する。 b①・体験、活動したことをカードに書いてまとめるなどの表現する活動を継続して行い、その中で、自分や他への気づきを促すようにする。 c①・今までの自分の成長を振り返り、関わっている人への感謝の気持ちをもつ。 d①・活動後の自己の振り返り後、グループやクラスの全体で感想を伝え合う時間を設定する。 e②・町探検やお手伝い等の学習後、ふりかえりカードを書き、交流することを通して家族の一員としての自分の役割や安全な登下校等の行動の仕方について気付くようにする。	a①・実際に歩いたり、体験したりする学習活動を通し、調べ学習の方法を指導する。 b②・施設等の見学を通し、地域に目を向けさせる。 c②・見学、調査、地域の人へのインタビュー等の学習形態を取り入れ、体験的な学習過程になるように工夫を行う。図書室の資料やインターネットのリンク集を活用する。 d②・白地図、穴埋め地図を活用して、千代田区、東京都、都道府県に関する地理的理解の習熟を図る。 e②・資料館、遺跡、博物館、現地の見学などや具体的な資料を活用して、文化財や先人の偉業を知り、働きや苦勞を具体的に理解できるようにする。 f③・表やグラフなどの資料から分かったことや気付いたことを書いたり話し合ったりする活動を位置付け、必要な情報を読み取ったり、資料に表わされている事柄の全体的な傾向をとらえたりする力を育てる。 g③・地図やグラフ、資料などの見方は実物を使いながら繰り返し指導する。	a①・表やグラフ・資料から分かる事実をまとめたり、分かったことを表やグラフにまとめたりする学習を繰り返し行う。 b②・資料から分かる事実をノート等にまとめ、その事実から分かる社会的事象について考えたり、意見を交流したりする学習を展開し、思考力や表現力を育てる。 c②・社会的事象に関する自分の考えを簡潔にまとめたり、短文で説明したりする学習を繰り返し取り入れる。 d③・地図帳を常に携帯し、学習内容に地名が出た際には必ず場所を調べられるようにすることで、国土に関する知識を常に使い続けるようにする。 e③・白地図への書き込みや都道府県に関するプリントを使い、名称や位置の理解などの習熟を図る。 f③・表やグラフなどの資料から分かったことや気付いたことを見出して書いたり話し合ったりする活動を授業に位置付け、必要な情報を読み取ったり、資料に表わされている事柄の全体的な傾向をとらえたりする力を育てる。

<p>基礎・基本・活用 (◎課題)</p>	<p>*1・2年の理科関係は、生活・社会の欄に記載。</p>	<p>○自然に親しむこと ○見通しをもって観察、実験などを行うこと ○問題解決の能力を育てること ○自然を愛する心情を育てること ○自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図ること ○科学的な見方や考え方を養うこと</p>			
	<p><b>【3年】</b> ◎①自然の事物・現象の差異点や共通点に気付いたり、比較したりする。 ○見出した問題に興味をもって追究する。 ○生物を愛護する態度を育てる。</p>	<p><b>【4年】</b> ◎①自然の事物・現象の変化とその要因とを関係付ける。 ○見出した問題について興味をもって追究する。 ○物の性質やその働きについての見方や考え方、自然の事物・現象に見られる規則性や関係についての見方や考え方を身に付ける。 ◎②追究の過程を、正しく記録する。</p>	<p><b>【5年】</b> ◎③変化させる要因と変化させない要因を区別しながら、観察、実験などを計画的に行っていく条件制御の能力を身に付ける。 ○見出した問題に興味をもって追究する。 ○自然の事物・現象の規則性についての見方や考え方、生命の連続性についての見方や考え方を身に付ける。</p>	<p><b>【6年】</b> ◎①自然の事物・現象の変化や働きについてのその要因や規則性、関係を推論する能力を身に付ける。 ○見出した問題に興味をもって追究する。 ◎②物の性質や規則性についての見方や考え方、自然の事物・現象の変化や相互関係についての見方や考え方を身に付ける。</p>	
<p>理科</p>	<p>課題に対する指導の手立て</p>	<p>a ①・実験の結果からわかることを考える時間を十分に設定する。 b ①・見出した事物・現象の規則性が、日常生活でどのように活用されているのかを考える学習を単元末に設定する。 c ①・植物の観察では、一人一人が植物を育てることで、植物の成長に喜びを感じられるようにする。また、植物の1年間の変化を観察することで、自然の四季の移り変わりを考えられるようにし、自然を愛する心情を育てる。継続的に観察カードに記録しポートフォリオとする。 d ①・電気のはたらきについて、実験を繰り返し行うことで事象を正しく理解する思考力を養う。 e ①・単元末に単元内容を生かしたものづくりを行う。 f ②・ノートやワークシートに正しく記録できるように、実験器具の名称や正しい使い方を丁寧に説明する。 g ②・結果を表やグラフを活用してまとめる学習を行う。 h ②・ノート、ワークシートには、課題、追究(観察、実験)、結果、考察を丁寧に書かせる。特に、観察・実験では、時間や時刻、気温、天候、温度、高さ、重さ、量等数字で表せる情報やその変化を正確に記録させる。</p>	<p>a ①・既習事項を振り返るような時間を毎回の授業で設定し、本時の学習に生かす。 b ①・実験・観察の仮説や実験方法を考える時間を大切にする。仮説を検証するための方法が考えられているかどうかグループで検討する時間を設け、児童の思考を深める。 c ②・実験・観察の考察をする時間を大切にする。結果と仮説を関連させて考え、学習課題に正対する言葉でまとめさせる。 d ②・単元の終末では、知識・理解の確実な定着を図る。ビデオ教材を活用し、単元のふり返りを行う。 e ③・仮説を基に実験方法を考えさせる時間を設け、調べる内容によって条件を変えて行うことで条件制御の能力を育てる。 f ①・実験器具の名称や正しい使い方を確認するとともに、安全に留意し、正しく実験をすることができるよう指導する。 d ①・実験結果や考察について、補充のプリントなどを使って復習し、定着を図る。</p>		

		第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
音楽	基礎・基本・活用 ◎課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音楽に対する興味・関心をもち、楽しく音楽にかかわり、音楽経験を生活に生かす。</li> <li>○ 基礎的な表現の能力を楽しく身に付け、音楽表現の楽しさに気付く。</li> <li>◎①音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みなどに気を付けながら、音楽を味わって聴く。</li> <li>◎②範唱や範奏を聴いて演奏したり、リズム譜に親しんだりするとともに、自分の歌声や発音に気を付けて歌ったり、身近な楽器に親しみ、音を合わせて演奏したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高めるとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする。</li> <li>◎①自らの感性や創造性を発揮しながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって表現する。</li> <li>○ 音楽を聴いたり楽譜を見たりして演奏するとともに、呼吸及び発音の仕方に気を付けて自然で無理のない声で歌ったり、音色に気を付けて楽器を演奏したりする。</li> <li>◎②音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、曲想の変化を感じ取って楽曲の特徴や演奏のよさに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高めるとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いあるものにしようとする。</li> <li>◎①音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって、まとまりのある音楽をつくる喜びを味わう。</li> <li>◎②音楽を形づくっている要素の働きから、楽曲のよさや美しさを感じ取るとともに、曲想を生かし、思いや意図をもって表現する。</li> <li>○ 音楽を聴いたり楽譜を見たりして演奏するとともに、豊かな響きのある自然で無理のない声で歌ったり、楽器の特徴を生かして演奏したりする。</li> <li>○ 楽曲の構成に気を付けながら、曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く。</li> </ul>
	課題に対する指導の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>a ①・主な旋律を口ずさんだり、楽曲を特徴付けているリズムを手で打ったり、あるいは体を動かしながらフレーズ、速度、強弱などを感じ取ったりするなど、音楽を形づくっている要素に気付いて楽しく聴く活動を工夫する。</li> <li>b ②・範唱・視唱の能力を育成するために、階名による模唱や暗唱を繰り返して正しい音程感覚を身に付けさせ、リズム唱やリズム打ちに親しみながら、音程感やフレーズ感、リズム感を十分に育てる。</li> <li>c ②・歌いながら体を動かしたり、リズム遊びをしたりすることを授業に取り入れる。</li> <li>d ②・鍵盤ハーモニカは、指使いやタンギングなど、基本的なことができるように繰り返し練習し、必要に応じて個別指導を行う。</li> <li>e ②・鍵盤ハーモニカは練習帳などの副教材も活用し、目標をもたせて取り組ませる。その際、演奏できた曲にスタンプを押したり、児童相互に教え合わせたりして、意欲を高めたり、達成感を味わわせたりするようにする。</li> <li>f ②・3拍子の曲で、バンブーダンスや打楽器を取り入れる。</li> <li>g ②・いろいろな国の音楽やリズムに触れさせ、表現力をつける。</li> <li>h ②・低学年児童の関心や意欲や集中を高めるために、一単位時間の授業を、リズム遊び→歌唱→演奏などのように活動の組み立て方の工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a ①・いろいろな音の響きや楽器の特徴に気付くように配慮し、その組み合わせを楽しみながら、自分の工夫した音をみんなで模倣したり、その音を使って友達と音で会話したりするなどの協働的な活動を取り入れる。</li> <li>b ①・全員に基礎的な技能が身に付くよう、やさしいリズムや旋律の演奏から徐々に継続的に取り組むようにする。</li> <li>c ②・主な旋律を口ずさんだり楽器で演奏したりして親しむようにし、音楽を特徴付けている要素や、楽曲の仕組みに気付けるよう、ポイントを絞って鑑賞させる。また、音楽に合わせて体を動かす活動、学習カード、板書などを工夫する。</li> <li>d ②・音楽の鑑賞や友だちとのかかわり（心を合わせて演奏する、聴き合ってコメントしあう）の中から、音楽の美しさやよさを感じ取り、ひびき合う（音楽がひびき合う、心がひびき合う）喜びを味わえるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a ①・児童が明確な考えや願い、意図をもつようにし、友達と互いの表現を聴き合い、よさを認めたり、意見を述べたりするなどの協働的な学びが深められるようにする。</li> <li>b ②・音楽を形づくっている要素を手掛かりに、楽曲のよさや美しさ、楽曲に対する理解を深められるようにする。</li> <li>c ②・自分が表現したいものに対する思いや意図を明確にもてるよう、題材との出会い方を工夫する。また、児童が表現したい音楽を求めて自分たちで工夫できるような活動を設定する。</li> <li>d ②・楽器の特徴を生かして組み合わせを工夫したり、友達の音や伴奏を聴いて表現方法を工夫したりする。</li> <li>e ②・楽曲の構成を理解したり、曲想を感じ取れるよう、ポイントを絞って鑑賞させたり、ワークシートを工夫したりする。また、感じ取ったことを言葉で表現できるようにするために、掲示を工夫したり、友達と交流する活動を取り入れたりする。</li> </ul>
図工	基礎・基本・活用 ◎課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎①感じたことや材料などを基に表したいことを思いついたり、形や色、作り方などを考えたりする。</li> <li>○ 児童の発言やつぶやきを大切にしながら活動を行っていく。</li> <li>◎②体全体の感覚を働かせながら材料や用具を使い、工夫して表す。</li> <li>◎③言語活動の充実。身の回りの作品などの形や色などから、面白さに気付いたり、楽しさを感じたりする経験をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎①感じたこと、想像したこと、見つけたことから、表したいことを見つけて表す。</li> <li>◎②前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだり形を変えたりするなどしてつくる。</li> <li>◎③言語活動の充実。実身の回りの作品などの形や色などから、面白さに気付いたり、楽しさを感じたりする経験をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎①表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表す。</li> <li>◎②絵画や工作などの表現活動では前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしてつくる。</li> <li>◎③言語活動の充実。感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえる。</li> </ul>
	課題に対する指導の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>a ①・子どもたちの日常の経験などに基づいた関心などを把握して題材を設定するようにする。</li> <li>b ②・はさみ、のり等の用具の使い方やこつなど、基本的な技能について時間をかけて指導する。</li> <li>c ②・造形遊びの活動をより活動の中心に置き、身近な用具・材料を扱う技能などを高めるとともに、体全体の感覚を働かせることを促す。</li> <li>d ③・身近な造形物、自然の中の造形、自分たちの作品などを鑑賞する機会を多く設けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a ①・児童が興味や関心の対象を広げる中で、自分らしい感じ方や見方をもてるよう、子どもたちの日常経験や関心に寄り添った題材を設定する。</li> <li>b ①・児童の発言やつぶやきを大切に、また児童の経験や作品をポートフォリオなども活用した活動を行っていく。</li> <li>c ②・身近な用具・材料を扱う技能などを高める中に、造形遊びの要素を一層取り入れ、自分の表したいことを見つけ表していく活動を促す。</li> <li>d ②・身近な材料や場所などを基に発想したり、体全体の感覚を働かせたりしながら、材料や用具を使い工夫して表す。</li> <li>e ③・身近な造形物、自然の中の造形、自分たちの作品などを鑑賞する機会を多く設けていく。また活動の途中で子どもたちが話し合ったり、自分の活動と重ねてみたりするなどできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a ①・児童が興味や関心の対象を広げる中で、自分らしい感じ方や見方をもてるよう日常の先行経験や知が、その題材とかかわることで再構成され、資質や能力が連続的に発揮されるようにする。</li> <li>b ①・授業導入時に、授業の全体的な指針と評価を児童に提示していく。・教師による評価が児童の関心意欲に反映されるようにする。</li> <li>c ②・児童の経験や作品をポートフォリオなども活用しながら自他の表現を言語化する活動を活発にしていく。</li> <li>d ③・名画や身近な造形物、自然の中の造形、自分たちの作品などを鑑賞する機会を多く設けていく。また活動の途中で子どもたちが話し合ったり、自分の活動と重ねてみたりするなど「能動的な鑑賞」を行えるようにする。</li> </ul>

		第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
家庭	基礎・基本・活用 (◎課題)			<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 衣食住に関する実践的・体験的活動を通して、家庭生活への関心を高め、その大切さに気付く。</li> <li>◎①日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、身近な生活に活用できるようにする。</li> <li>○ 自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくするためにできることを実践しようとする。</li> </ul>
	課題に対する指導の手立て			<ul style="list-style-type: none"> <li>a ①・実践的・体験的な活動を多く取り入れ、生活に必要な生活技能を身に付けさせる。</li> <li>b ①・家庭生活から課題を見つけたり、考えたりするなどの問題を解決する学習を取り入れる。</li> <li>c ①・身に付けたことを生かして、家庭において実践する活動を積極的に取り入れ、関心・意欲・態度面や思考・判断面など適切に評価する。</li> </ul>
体育	基礎・基本・活用 (◎課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ だれとでも仲よく、健康・安全に留意して、進んで運動をしようとする。</li> <li>○ 体づくり運動やゲーム、各運動遊びの行い方を考え、工夫する。</li> <li>◎①体づくり運動やゲーム、各運動遊びを楽しくできるようにするとともに、その基本的な動きを身に付け、体力を養う。</li> <li>○ きまりを守るなど、集団行動の基礎を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎①互いに協力し、進んで楽しく運動をしようとする。また、健康・安全に留意し、最後まで努力して運動をする。</li> <li>◎②活動を工夫して各種の運動を楽しく行い、その基本的な動きや技能を身に付け、体力を養う。</li> <li>○ 健康な生活、体の発育・発達について理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 協力・公正などの態度を身に付け、健康・安全に留意して運動する。</li> <li>◎①自己の能力に応じた課題を理解して、活動の仕方を考え、工夫して運動する。</li> <li>◎②運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、特性に応じた基本的な技能を身に付けて体力を高める。</li> <li>○ 心の健康、けがの防止及び病気の予防について理解できるようにし、健康で安全な生活を営む資質や能力を身に付ける。</li> </ul>
	課題に対する指導の手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>a ①・自分の体のいろいろな動かし方を知るために、用具や固定遊具を使い楽しみながら、自分の体を操作できる活動を工夫する。</li> <li>b ①・なわとびカードを活用するなど、意欲的に取り組むことができるようにする。また基礎体力の向上に努め、技能の向上を図る。</li> <li>c ①・目標を持たせて、運動に取り組ませる授業を行う。</li> <li>d ①・楽しく意欲的に運動遊びやゲームができる場や教材を工夫する。</li> <li>e ①・運動量が十分に確保できる効率的な授業を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a ①・楽しみながら体を動かし、仲間と協力して意欲的に活動することができる運動の場や教材を工夫する。</li> <li>b ②・学習カードなどを活用し、めあてを明確にし、それに向かって練習やチームの作戦を立てるなどの活動を工夫する。</li> <li>c ②・自分に合っためあてをもち、運動の仕方やルールを工夫をせんだり話し合ったりして活動し、基本的な動きや技能を身に付ける。</li> <li>d ②・体験や実験などの活動を通して、実践的な理解を図る学習活動を工夫し、日常の健康で安全な生活につながるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a ①・個人カードやチームカード等を活用し、めあてを明確にするとともに、作戦を立てたり、動き方や運動する場、練習の仕方などを工夫したりしたことを記録できるようにする。</li> <li>b ①・スポーツテストの結果から、自己の課題とする運動を把握し、日常的に運動に取り組み、体力を高めるための意識づけを行う。</li> <li>c ②・運動の特性に触れることができる場の工夫をしたり、取り組みの結果を数値化したりすることで、意欲や技能、体力の高まりが実感できるようにする。</li> <li>d ②・運動の適切なモデルを示し、個々の課題に合った指導・助言を行う。</li> </ul>

## IV 授業改善【探究】 「総合的な学習の時間」等

	第1学年及び第2学年〔生活科等〕	第3学年及び第4学年〔総合的な学習の時間〕	第5学年及び第6学年〔総合的な学習の時間〕
目標 (◎重点)		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ (探究する力) 経験や人とのかかわりから課題を発見し、探究していく中で考えを深め、相手や目的に応じて分かりやすく伝えることができる。</li> <li>◎①(かかわる力) 自分の考えを伝えたり、異なる意見や他者の考えを受け入れたりし、協同して学習することができる</li> <li>○ (生かす力) 学んだことを日常生活の中で心がけたり実践したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ (探究する力) 経験や人とのかかわりから課題を発見し、探究していく中で得た情報と自分の考えを関係付け、目的や意図に応じて応答と説明ができる。</li> <li>◎①(かかわる力) 自分の考えを伝えたり、異なる意見や他者の考えを受け入れたりし、協同して学習する中で、考えを深めたり、広めたり、新しい考えを生み出したりできる。</li> <li>○ (生かす力) 自分の将来や、他者、社会のために、自分ができることを考えたり、実行したりしようとする。</li> </ul>
内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>○お茶の水の町を守ろうプロジェクト (地域安全マップ)【地域(学校)】(30)</li> <li>○食品のひみつ【食育・情報】(15)</li> <li>○和太鼓に学ぶ【地域(伝統)】(25)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○みんないっしょに【福祉】(32)</li> <li>○お茶の水 すてき発見Ⅱ【地域(特色)】(15)</li> <li>○未来に向かって【キャリア教育】(23)</li> </ul>
指導の手立て		<ul style="list-style-type: none"> <li>a ①・調べたことを誰に伝えたいか、どのようにまとめたか、更に調べたくなったことは何か、ワークシート等と活用して、明確にできるようにする。</li> <li>b ①・様々な表現方法があることを指導し、自分が表現したい方法を選択できるようにする。</li> <li>c ①・交流活動を通し、自分の考えを深められる場を設ける。</li> <li>d ①・福祉や地域、日本のよさについて考えられるようにオリンピック・パラリンピック教育と関連付けた単元計画を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a ①・各教科との関連を図り、課題設定や発表の方法などにおいて、児童が主体的に取り組めるようにする。</li> <li>b ①・伝統文化を直接体験する活動を通して、日本の伝統のよさに気付くと共に、地域の方々をはじめ、人とのかかわりを大切にする気持ちをもてるようにする。</li> <li>c ①・上級生との教え合い活動を通して、学校の伝統を守ることの大切さを実感させる。また、成果を発表する場を設け、より意欲的に地域や周囲の人とかかわろうとする思いがもてるようにする。</li> <li>d ①・孺恋自然体験交流教室を通して、自分の課題を明確にもち、問題解決能力を育む。また、課題の解決や調査結果を伝える相手を明確にして、相手意識をもった効果的な表現が身に付くようにする。(5年)</li> <li>e ①・日光移動教室を通して、自分の課題を明確にもち、問題解決能力を育む。また、聞き手に合わせた効果的な資料作りや、分かりやすいプレゼンテーションの方法が身に付くようにする。(6年)</li> </ul>

**V 道徳の改善**

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題 ◎	◎①規則正しく、きまりよい生活に関する事として、時間を守ることや、身の回りや身支度を整えるなどの基本的な生活習慣に個人差が見られる。 ◎②自分の考えや意見を相手に伝えることが苦手である。	◎①規則正しく、きまりよい生活に関する事として、時間の尊重や身の回りの整理整頓に課題が見られる。 ◎②発達的な特質から、まだ自己中心的な考え方をしがちで、友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しいことも少なくない。	◎①よいと思ったことを遠慮してしまい、進んで行うことができないことがある。 ◎②自分の考えや意見を相手に伝えることが苦手である。	◎①自分に直接関係のないことには、問題意識をもたないことがある。 ◎②集団生活において、相手の気持ちを考えた声のかけ方が苦手な児童がいる。	◎①道徳的価値については概ね理解しているが、日頃の生活の中で生かすことができない。 ◎②場に応じた発言や行動、相手の立場を理解した行動をとることができない時がある。	◎①最高学年として、自分の選択した行いには必ず責任が伴うということを理解する力が十分ではない。 ◎②場に応じた発言や行動、相手の立場を理解した行動をとることができない時がある。
課題に対する指導の手立て	a ①・授業後段に、自分を見つめ、自分の言動などについて考える時間を設ける。 b ①・学習後、「わたしたちの道徳」やワークシート等を活用し、身の回りのものを片づけることができているか学校での様子を確かめるようにする。 c ②・児童の日常生活の場面の資料や、心に響く資料を活用し、自分を見つめ、自分を振り返ることができるような機会を設けていく。	a ①・授業後段に、自分を見つめ、自分の言動などについて考える時間を設け、ワークシート等に記入したり発表したりして実践への意欲をもたせる。 b ①・学習後、「わたしたちの道徳」やワークシート等を活用し、身の回りのものを片づけることができているか学校や家庭での様子を確かめるようにする。 c ②・導入や授業後段に、友達と一緒に活動して楽しかったことや友達と助け合ってよかったことを考えさせ、友達と仲良くする大切さを育む。	a ①・「わたしたちの道徳」や「心しなやかに」などの副読本を積極的に活用する。 b ②・授業後段で、自分を見つめ、自分の言動などを自主的に振り返る機会を設けていく。 c ②・問題を自分たちで話し合い、相手に伝わるように自分の言葉で話し、解決できるようにする。	a ①・身近な学習題材を多く取り入れることで、自分の日常生活場面に置き換えて考えられるようにする。 b ②・友達との意見交換の場を設けることで、自分と違う意見や気持ちがあることを理解でき、受け止められるようにする。 c ②・副読本や資料などを積極的に活用し、自分を見つめ、自分の言動などを自主的に振り返る機会を設けていく。	a ①・身近な学習題材を多く取り入れることで、自分の日常生活場面に置き換えて考え、行動につなげられるようにする。 b ①・授業後段で、自分の考えたことや感じたことをワークシート等にかきかせることを通して、今までの自分を振り返り、日々の生活で実践できるような意欲をもたせる。 c ②・副読本や資料などを積極的に活用し、自分を見つめ、自分を自律的に、また、肯定的に振り返る機会を設けていく。	a ①・「わたしたちの道徳」や「心たくましく」などの副読本の中に記載されている「善悪の判断、自律、自由と責任」の内容項目に関わる詩や名文を積極的に活用する。 b ②・副読本や資料などを積極的に活用し、自分を見つめ、自分を自律的に、また、肯定的に振り返る機会を設けていく。 c ②・人との接し方や相手を思いやる気持ちを育むために、動作化や役割演技を行う機会を設けていく。